

【只見町】

2019年度 ユネスコエコパーク関連事業

2019年度 第3回「只見子ども藝術計画」を実施！

2019（令和元）年11月28日（木）、第3回「只見子ども藝術計画」が実施されました。朝日地区放課後子ども教室の子どもたち5名（小学1-2年生）を対象に、「ブナの森の道具屋さん」をテーマにしたワークショップが行われました。前回のワークショップでは子どもたちにブナの森にいる生き物が使うかもしれない道具を創作してもらいました。これらの作品は今後、ただみ・ブナと川のミュージアムなどで展示する（“ブナの森の道具屋さん”をオープンさせる）を予定です。今回のワークショップでは、作品を展示するための準備を行いました。

当日、アーティストの岩田とも子さんは只見に来ることはできませんでしたが、子どもたちに宛てた手紙が届いていました。まず、子どもたちに岩田さんからの手紙を読んでもらいました。手紙には展示に向けて必要なもの、“看板”を子ども達に協力してつくってほしいと書かれていました。これが今回のワークショップの内容になります。



岩田さんからの手紙を読む子どもたち

ブナの森の道具屋さん

いっしょにブナの森にいたり、
道具をつくらしたみんなへ

こんにちは。アーティストのいわとも
です。只見はもう雪がふったかな？
雪がたくさんふるころに“ブナの森の
道具屋さん”のてんぐん会をブナセター
でおこないます。みんなが森でみつけた
ものやつくった作品をいろんな人にみせ
もらうてんぐん会です。
でも... 1つ大事なものが
まだありません。
何でしょう....



↑岩田さんからの手紙

今回はそのかんぱんの文字を
みんなで協力してつくります。
せいろりとどうぐは前回と
同じ。森であつめたもの写真しんしん
をとりはたして1枚ずつ
つくてね。

次にみんなに会うのは12月16日。
すきな“森のもじ”をみれるのを
たのしみしています。

いわとも

子どもたちには「ブナの森の道具屋さん」と書かれた看板をつくるため、1文字ずつ、森であつめたものの写真を切ったり、貼ったりして作ってもらいました。作業的には前回のワークショップと同じため、子どもたちは

慣れた様子ではさみを使い、使いたい素材をどんどんと切り出していきます。また、台紙には下書きもせずに、文字の見本を見ながらどんどん作業を進めていきます。森の写真を手に取りその中から淡々とパーツを切り出し1つの文字を作る子もいれば、葉っぱや果実、きのこなど色々な素材を組み合わせる子もいて、それぞれの個性が光ります。難しい文字を選択して途中で作業を諦めてしまった子もいましたが、友達が協力して完成させてくれました。また、「楽しくてどんどん作れちゃう」と言いながら作業を進め一人で3つの文字を完成させた子もいました。5人のこどもたちのおかげで「ブナの森の道具屋さん」の素敵な看板が完成しました。

次回の12月16日(木)には、ただみ・ブナと川のミュージアムで今まで子どもたちが創作してきた作品を展示し、「ブナの森の道具屋さんを」がオープンします。



みんなはどんな素材を使って文字を作るのかな。



思い思いに作業を進めていく。



「ん」: シンプルな文字こそセンスが光ります



「具」: 難しい漢字も
なんのその。



「ブナの森の道具屋さん」の看板文字が完成！

【担当】 只見町役場地域創生課ユネスコエコパーク推進係

TEL 0241-82-5220